

# 「数学者の、研究と子育て懇談会」開催報告

九州大学基幹教育院

斎藤 新悟

## 1 はじめに

「数学者の、研究と子育て懇談会」は、2021年、2022年の秋季総合分科会に合わせた時期に、男女共同参画社会推進委員会の主催でオンラインで開催されました。私は、研究と子育ての両立について興味があったため、2021年の「数学者の、研究と子育て懇談会」に一参加者として参加し、その後の男女共同参画社会推進委員会委員就任に伴い、2022年の「数学者の、研究と子育て懇談会」では担当委員として開催の実務を担いました。今回、『数学通信』で「数学者の、研究と子育て懇談会」の開催報告をさせていただく機会を得ましたので、開催の背景や懇談時に出た話題などについて紹介したいと思います。「数学者の、研究と子育て懇談会」はまだ歴史が浅く、ご存じない会員も多いかと思っておりますので、ご参考になりましたら幸いです。

## 2 「数学者の、研究と子育て懇談会」開催の背景

男女共同参画社会推進委員会は、2016年から「女性だれでも懇談会」を主催してきました（その前身として、2014年には「女性数学者交流会」が開催されています。これらについて、詳しくは『数学通信』第26巻第4号に掲載された佐々田槇子氏、嶽村智子氏による『女性数学者交流会「女性だれでも懇談会」の紹介<sup>1</sup>』をご覧ください）。「女性だれでも懇談会」で子育ての話題が出ることもあったようですが、「女性だれでも懇談会」に参加する女性には子育てに携わっていない方も多く、子育ての話題に特化した別の企画がある方が望ましいという意見がありました。また、「女性だれでも懇談会」で子育ての話ばかりが行われると、子育ては女性の仕事であるという誤ったステレオタイプを増長させてしまう恐れがあり、その一方で男性数学者からも子育ての話に関わりたいという要望がありました。このような背景があり、2021年に「数学者の、研究と子育て懇談会」を開催することになったとのことです。

---

<sup>1</sup><https://www.mathsoc.jp/assets/file/publications/tushin/2604/josei-daredemo.pdf>

### 3 「数学者の、研究と子育て懇談会」の日時・参加者

第1回の懇談会は、2021年度秋季総合分科会がオンライン開催となったことに伴い、2021年9月17日12:00–13:00にオンラインで開催されました。男女共同参画社会推進委員会の担当委員は坂内健一氏（慶應義塾大学）と田中心氏（東京学芸大学）でした。参加者は19名（申込者20名）で、そのうち4割程度が男性、8割程度が子育て中の方でした。

第2回の懇談会は、2022年度秋季総合分科会に合わせて、2022年9月15日11:30–12:50にオンラインで開催されました。担当委員は田中心氏と私でした。参加者は19名（申込者27名）で、そのうち6割程度が男性、7割程度が子育て中の方でした。

子育て中の方以外では、子育て中の研究者を支援したい方、将来に向けた情報がほしい方が参加されていました。数字から分かるように、日本数学会全体と比較すると女性の割合が多めではありますが、男性の参加者も決して少なくありません。子どもと一緒に参加することも可能で、実際に今まで開催された2回の「数学者の、研究と子育て懇談会」のどちらにも、子ども連れの参加者がいらっしゃいました。

### 4 「数学者の、研究と子育て懇談会」の内容

参加申込はオンラインのフォームで受け付けました。フォームでは氏名・メールアドレス・所属等に加えて、参加のきっかけ、自己紹介などを記入してもらっています。また、他の人の意見を尊重することや、会話の中で出たプライベートな事情などを他の人に言いふらさないことなど、いくつかの「お願い」に同意してもらっています。これらは参加者が安心して「数学者の、研究と子育て懇談会」に参加してもらうため、自己紹介等は事前に参加者の間で共有しています。

当日は、担当委員が短時間全体的な説明をした後に、4~5人程度の班に分かれ、ブレイクアウトルームを用いて班ごとに自由に懇談します。30分ほど後に班をシャッフルし、また自由に懇談します。最後に班の中で出た話題のうち参加者全員で共有したいものがあれば共有してもらい、公式な懇談会は終わります。終了後も、希望者は残って雑談を行っています。

終了後には、参加者に事後アンケートのお願いをしました。今後同様の企画があったら参加したいと思うかという質問をしたところ、2021年、2022年ともに、回答者全員が（非常に・ある程度）参加したいと回答していましたので、参加者の満足度は高かったように思います。

## 5 「数学者の、研究と子育て懇談会」での話題

本節では、今までの「数学者の、研究と子育て懇談会」で話題に上ったトピックについていくつか記述します。なお、子育て中の研究者をめぐる話題については、当事者の間でも様々な見解があります。したがって、以下の記述のうち意見に関する部分については、(少なくとも当事者の意見ではあるものの)あくまで筆者の私見であり、「数学者の、研究と子育て懇談会」の参加者の総意でも、男女共同参画社会推進委員会の総意でもないことにご留意ください。

### 5.1 各大学の子育て支援について

現在では、研究者支援として子育て支援の制度が多くの大学にありますが、その内容は大学によって様々であり、「数学者の、研究と子育て懇談会」の参加者の間で大学間の制度の違いに驚くこともしばしばです。ご自身の所属大学の制度と他の大学の制度を比較してみると、興味深いかもしれません。例えば、お茶の水女子大学の制度は「ワークライフマネジメントに向けた研究者支援<sup>2</sup>」という冊子にまとまっています。

### 5.2 任期付きの職についている研究者の育児休業について

子育て中の研究者は、任期付きの職についていることが少なくありませんが、任期付きの職についている研究者が育児休業を取った場合には任期が延長されない場合も多いようです。このことは、男女共同参画学協会連絡会による「第五回科学技術系専門職の男女共同参画実態調査解析報告書<sup>3</sup>」のp. 118でもデータとして示されています。任期付きの職についている子育て中の研究者の研究継続を支援するためには、育児休業時に任期が延長される制度をより広げていくことが必要のように思います。

### 5.3 研究集会の開催方法について

2020年の新型コロナウイルス感染症の感染拡大以降、多くの学会・研究集会・セミナーがオンラインあるいはハイブリッドでの開催となりました。休憩時間の雑談も含め、対面で実際に会って議論を交わすことには大きな意義がある反面、子育て中の研究者には研究集会に参加するために出張することが難しい方が少なくありません。ハイブリッド形式での研究集会開催は主催者にとって負担になるとは思いますが、オンラインでの参

---

<sup>2</sup>[https://www.ocha.ac.jp/danjo/info/worklife\\_management\\_d/fil/worklife\\_management.pdf](https://www.ocha.ac.jp/danjo/info/worklife_management_d/fil/worklife_management.pdf)

<sup>3</sup>[https://djrenrakukai.org/doc\\_pdf/2022/5th\\_enq/5th\\_enq\\_report.pdf](https://djrenrakukai.org/doc_pdf/2022/5th_enq/5th_enq_report.pdf)

加の可能性があると、子育て中の研究者だけでなく、介護中の方、病気や障害のある方など出張が難しい様々な研究者を包摂した集会になるように思います。

その一方で、子育て中の研究者が出張しやすくなるような環境作りも重要だと考えます。年会・秋季総合分科会では2004年3月の年会から保育室が設置されています<sup>4</sup>が、その他の研究集会では保育室が設置されているものはまだ少ないように思います。京都大学数理解析研究所では、共同研究開催期間中に京都大学内に臨時の保育室を設置する制度があるようです<sup>5</sup>。また、保育室が設置されている場合でも子どもの旅費が負担になるという場合もあります。筆者が所属している九州大学では、最近「子の出張帯同支援経費<sup>6</sup>」の制度ができました（ただし、残念ながら現在のところ科研費での支出は不可とのことです）。このような制度が少しずつ広がっていくと、子育て中の研究者の出張がより容易になっていくように思います。

また、子どもの体調不良に備えて、研究集会開催地の近くの内科・小児科や病児保育ができる施設などの情報があると便利であるという声もあります。中央大学で開催された2023年度年会では、保育室利用者に対して近隣医療施設の地図が用意されていました（なお、ウェブサイトにはバリアフリーマップへのリンクがありました）。このような情報が提供されていると、より多くの方が安心して学会に参加できるように思います。

## 6 おわりに

本稿の執筆の機会を与えてくださった田口雄一郎編集委員長をはじめとする『数学通信』編集委員会の皆様に謝意を表します。執筆にあたり、坂内健一委員長をはじめとする日本数学会男女共同参画社会推進委員会の皆様には貴重なコメントをいただきました。厚くお礼申し上げます。また、今までに開催された「数学者の、研究と子育て懇談会」に参加してくださった皆様、メーリングリスト等での周知にご協力くださった皆様に感謝を申し上げます。

「数学者の、研究と子育て懇談会」はまだ始まったばかりで、今後は様々な立場の方の意見を取り入れつつ、よりよいものにしていきたいと考えています。また、子育て以外のトピックに関する懇談会にも需要があるかもしれません。何かご意見等ございましたら、私あるいはお近くの男女共同参画社会推進委員会委員にお声掛けいただければ幸いです。様々な境遇にある多様な研究者が能力を十分に発揮できるような環境に少しでも近づいていくことを願っています。

---

<sup>4</sup>[https://www.mathsoc.jp/overview/committee/gender\\_equality/](https://www.mathsoc.jp/overview/committee/gender_equality/)

<sup>5</sup><https://www.kurims.kyoto-u.ac.jp/kyoten/ja/guideline.html>

<sup>6</sup><https://danjyo.kyushu-u.ac.jp/support/taidou.php>